

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	Daisy kids				公表日	2024年10月25日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が児童支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○	ホール・調理室(53.31㎡)、調理室(9.91㎡)、授乳室(8.64㎡)、給食室(12.47㎡)、洗面所・トイレ等(9.37㎡)、保健室(3㎡)、それぞれ別の空調を稼働しています。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置は適切であるか。	○	指導員1名、児童発達支援管理責任者1名、保育士5名(園児1名、非園児4名)、児童発達支援員5名(園児2名、非園児3名)、遊戯士1名、おしよさいポーターを配置していません。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性にふさわしいバリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切にされているか。	○	事業所内は児童の確保を考慮し、狭くところ物を置かないことを意識した物の配置を行っている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもの活動に合わせた空間となっているか。	○	毎日清掃、消毒をしている。食事前後、児童の排泄後、また、事故に合わせた消毒・換気している。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○	休息するための部屋(静寂室)を設けてこどもが静寂(聴覚や視覚)に慣れる機会としてのホール等を使い分けています。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。		○			改善に関する話し合い、実施しているが、振り返りや全体の共有、やりきりなどはまだない。業務上、話し合いに促される時は限られているため、現実的に実行可能な範囲づくりが課題である。
	7	保護者向け研修会により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○			第三者評価は行っていません。
	10	職員の資力の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムを作成、公表されているか。	○				プログラムは、5領域を網羅したものを作成しています。その他、個別支援計画に基づいた研修を行っています。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもの発達レベルや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○				児童本人からの保護者負担等、ニーズを踏まえアセスメントを行い、支援計画の中でも実践、また個別での療育の機会を設けており、個々に合わせて実施しています。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの発達に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○				スタッフ間の意見を集め、計画に反映しています。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○				計画の内容等は、研修を含めてスタッフ間で共有を行い、個々の支援計画の進捗状況を確認し、必要に応じて調整を行っています。
	15	こどもの反応行動の状況や、標準化されたツールを用いたフォーマットなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も含まれているが、こどもの発達に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○				スタッフ間で協議をし、プログラムの立案を共有している。当日実施する児童の発達年齢に合わせたプログラムを調整しています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○				季節や発達段階、好みなどこどもの様子を見て、柔軟に変化させている。より多様なニーズに対応できるよう、定期的な見直しを行っている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○				プログラムとして、個別活動と集団活動の両方を組み合わせて実施しています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○				療育の前には、ミーティングの時間を設定している。
関係機関や保護者との連携	21	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	○				療育の後には、振り返りの時間を設定している。課題の明確化、問題が解決している場合には設けられたチェックリストで評価している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○				療育の記録に加え、保護者からの相談や質問への対応の記録も必ず記録している。全員が記録に目を通しておくように、声かけをしている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な処置を行っているか。	○				半年以内のモニタリングを実施して行います。前項、記録上の必要性があれば協議を行い、調整できるように努めます。
	24	児童発達支援事業所等のサービス担当者会議や関係機関との会議に、こどもの状況をよく理解した職員が参加しているか。	○				基本的には、児童発達支援管理責任者が参加しています。可能な限り指導員も参加しに行く方針です。
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○				医療(主治医や協力医療機関)、障害福祉、保育、教育関係のとは定期的に会議やミーティングを開催し、連携について話し合っている。
	26	移行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保護者や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○				園と特別支援学校との連携を行い、園への移行を行い、園との連携を継続すると同時に園との先方との情報共有を行っています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学校)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○				就学支援として、支援学校や地域の小学校への見学・体験の機会や、保護者の相談に努めています。
	28	{28-30は、センターのみ参照}					
	29	地域の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	30	{28-30は、センターのみ参照}					
保護者への説明等	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受けられる機会を設けているか。	○				近隣の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受けられる機会を設けている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○			保育所・認定こども園・幼稚園と併行連携している児童がほとんどで、事業所主催での交流の機会を確保することはできない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○				電話やメッセージ、メール等のやり取りのほか定期的に自こどもの状況を伝えあえるよう心がけています。
	34	家族の対応の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○				必要に応じて、保護者等に支援方法や行動の受け入れ方や考え方を伝えています。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				お電話での問い合わせや見学に来所していただいた際、説明に努めています。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を尊重する機会を設けているか。	○				
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、適切な必要な助言と支援を行っているか。	○				電話相談、保護者訪問、相談員や研修士による園の先方へも相談・助言を行っている。
	39	父母の会の活動や支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、さまざまな向上で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○				保護者会を定期的に開催し、保護者同士の交流が促される機会を設けている。児童の個別に保護者プログラムが分かる時刻表も提供しています。その他、児童児の会も開催しています。
	40	こどもや保護者からの相談や申し込みに、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に相談し、相談や申し込められた場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○				
非常時等の対応	41	定期的に連絡等を行うことや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○				ブログやSNSやスタグラムにて発信しています。
	42	個人情報等の取扱いに十分留意しているか。	○				プライバシー、個人情報保護法に基づき、個人情報を適切に管理・取扱いを行っています。また、スタッフへの指導・再確認を行っています。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○				
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っているか。		○			行事等への参加を積極的に行い、交流を図っています。
	45	防災マニュアル、緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、備品点検マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、実施を想定した訓練を実施しているか。	○				毎月、地震・火災・水害等対応などの訓練を実施しています。保護者のマニュアルの周知も進められています。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に訓練、救出その他必要な訓練を行っているか。	○				年に一度、消防隊と協力して非常時対応の訓練を実施しています。その他にも、事業所内の設備訓練は月に一度行っています。
	47	事前に、地震や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を把握しているか。	○				事前に、地震発生時に入所している児童、確認をしています。また、予防接種や緊急時対応の連絡体制も整備しています。
	48	食育アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づき対応がなされているか。	○				医師の、健康状態を記入した食歴、確認を行っています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な計画を講じる等、安全管理が十分な中で支援が行われているか。	○				
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○				
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○				すべて日々の共有ができ、当日・翌日の確認にて情報共有を行っています。その後も定期的にヒヤリハットの振り返りや職員同士で行う研修も実施しています。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○				虐待防止研修については研修、研修を実施してあります。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に策定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○				法に基づいて身体拘束、事前に十分に説明を行い、了解を得た上で実施しています。	